

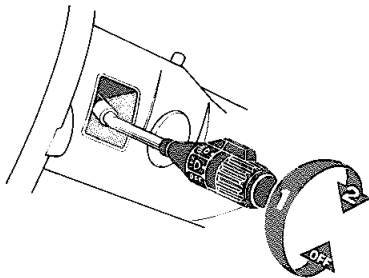
スイッチの使い方	16
ライト・コントロール・スイッチ	16
ターン・シグナル・レバー	16
ワイパー&ウォッシャー・スイッチ	17
リヤ・ワイパー&ウォッシャー・スイッチ	17
リヤ・ウインドウ・デフォッグ・スイッチ	18
パーキング・スイッチ	19
ハザード・ウォーニング・スイッチ	19
運転装置の操作	19
エンジン・スイッチ	19
エンジン始動	20
エンジン・ウォーマー	22
シフト・レバー	23
オーバードライブ・メーン・スイッチ(4速オートマチック)	25
パーキング・ブレーキ・レバー	25
チルト・ステアリングの調整	26
ミラー調整	26
EFI(電子制御式燃料噴射装置)	27
ESC(電子制御式スキッド防止装置)	27
オート・ドライブ	28
シートの調整	29
フロント・シートの位置調整	29
上下アジャスター	30
ランバー・サポート(腰椎支持)	30
ヘッド・レストの位置調整	30
ハードトップ車の後席への乗り降り	31
ハードトップ車のリヤ・シートの倒し方	31
リヤ・シート	32
シート・ベルトの装着	33
フロント・シート・ベルト	33

リヤ・シート・ベルト	35
室内装備の使い方	37
時計	37
エンジン・キー照明	38
ルーム・ランプとドアの関係	38
フロント・パーソナル・ランプ	39
シガレット・ライター	39
灰皿	39
グローブ・ボックス	40
化粧ミラー付きサン・バイザー	40
コンソール・ボックス	40
車体各部の開閉	41
ドアについて	41
電磁式ドア・ロック	42
チャイルド・プロテクター	42
ワンタッチ式パワー・ウインドウ	42
エンジン・フード(ボンネット)	43
ガソリン・タンク・キャップ	44
トランク	44
バック・ドア	45



スイッチの 使い方

■ ライト・コントロール・スイッチ



エンジン・スイッチに関係なく、ランプが点灯します。

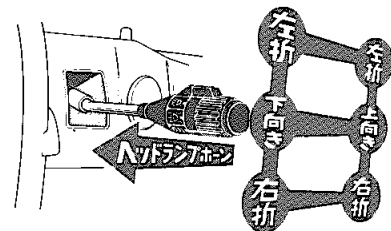
ノブを回すと①、②の位置で、次の○印のランプが点灯します。

灯 火 名	①	②
ヘッドランプ	○	○
クリアランス・ランプ, テール・ランプ (車幅灯)	○	○
ナンバー・プレート・ランプ	○	○
メーター照明ランプ	○	○

ランプ消し忘れ警告ブザー*

走行後、ライト・コントロール・スイッチがONのままでエンジン・スイッチを切ると、ブザーが鳴りランプ類の消し忘れを警告します。

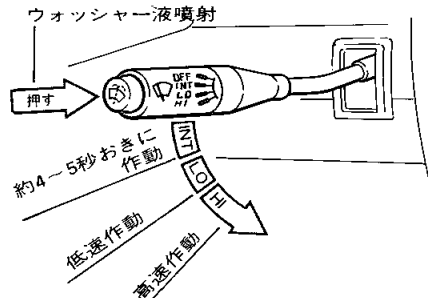
■ ターン・シグナル・レバー



レバーを手前に引くとヘッドランプが点灯し手をはなすと、もとの位置にもどります。これをヘッドランプ・ホーンといい、高速道路などで先行車を追い越すときなどの合図に使用します。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください

■ワイパー・&ウォッシャー・スイッチ



STD車は、LOとHIの2段切り替えです。

ウォッシャー連動式ワイパー

STD車を除く

ウォッシャー・スイッチを押すとウォッシャー液を噴射し、後にワイパーが2～3回作動します。

★ウォッシャー液がカラのときは、ウォッシャー・スイッチを使用しないでください。ポンプを痛めることがあります。

★からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ず、ウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

★寒冷時は、ワイパーを作動させる前

に、ブレードがガラスに張りついていないことを点検してください。凍結したまま作動させるとモーターが故障することがあります。



寒冷時にウォッシャーを使用するときはガラスに放射された液が凍結し、視界不良を起こすことがありますので先にウィンドウ・ガラスをデフロスターで暖めてください。

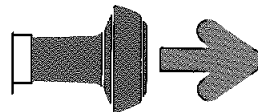
■リア・ワイパー・&ウォッシャー・

スイッチ *

ウォッシャー液噴射



ワイパー作動



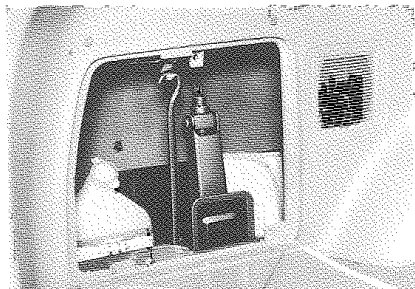
ウォッシャー・タンク

ハードトップ車



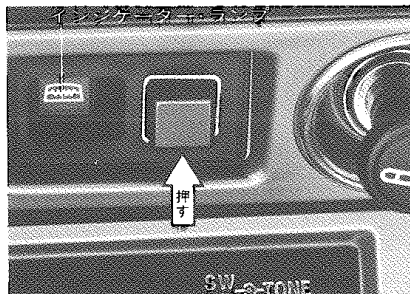
トランク・ルーム左側に取り付けてあります。

ワゴン/バン車



荷室の左側のカバー内に取り付けてあります。

■ リヤ・ウインドウ・デフォッガ・
スイッチ*



リヤ・ウインドウが曇ったとき、ガラスの表面を暖めて、曇りを取ります。スイッチを押すとONになり、インジケータ・ランプが点灯し、作動していることを示します。

もう一度押すとOFFになります。

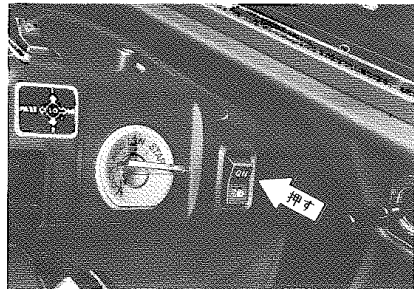
★リヤ・ウインドウの曇りが消えたら、スイッチは必ず切りましょう。デフォッガは消費電力が大きいので、スイッチを入れたままにしておくと、バッテリーあがりの原因になります。

★曇り取り以外には、使用しないでください。雨水の乾燥や雪を溶かすことはできません。

★熱線入りガラスの清掃は、ぬらした布で熱線にそって、軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどは使用しないでください。

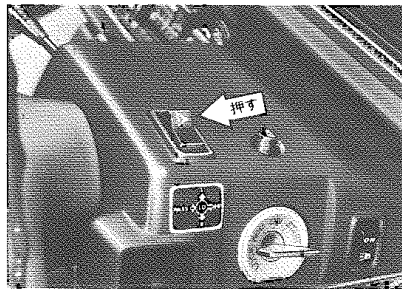
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ パーキング・スイッチ



路上駐車時に使用します。
スイッチをONにすると、前後左右のパーキング・ランプが点灯します。

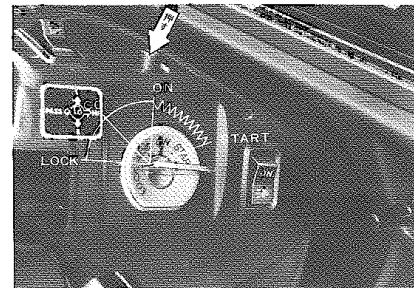
■ ハザード・ウォーニング・スイッチ



故障などで、やむをえず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用します。スイッチを押すと、すべてのターン・シグナル・ランプが点滅します。走行中、異常がないのに使用すると他車の誤解をまねき危険です。

運転装置の 操作

■ エンジン・スイッチ



- LOCK** キーを抜き差しできる位置。キーを抜くと、ハンドルがロックされます。
- ACC** エンジン停止時、ラジオ、ステレオの聞ける位置。
- ON** エンジン回転中の位置。
ディーゼル車は始動時グロー・ブラ

START……エンジンを始動する位置。手をはなせば、自動的にONにもどります。

〈ロックするときは〉
 プッシュ・ボタンを押しながらキーをLOCKの位置に回します。キーを抜くとハンドルがロックされ車両盗難防止に役立ちます。

★キーがLOCKからACCに回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら、キーをACCに回してください。

★バッテリーあがりを起こさないために、下記の事項を必ず守ってください。

1. エンジン停止時は、スイッチをLOCKまたはACCにする。
 長時間停止する場合は、LOCKの位置にする。
2. エンジンがかからないとき、15秒以上STARTの位置へ回した

グを予熱します。

ままにしない。

3. エンジンを止めた状態 (ON, ACC) で、ラジオやステレオを長時間つけたままにしない。

■エンジン始動

シフト・レバーの位置をマニュアル・トランスミッション車は④、オートマチック・トランスミッション車は⑤にします。

ガソリン車(EFI車を除く)

〈エンジンが冷えているとき〉

1. アクセル・ペダルを次表にしたがって踏み込みます。

外 気 温	踏 む 回 数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい1～2回
-10℃以下	いっぱい2～3回

2. アクセル・ペダルから足をはなし、エンジンを始動します。
3. しばらく暖機運転をします。
 オート・チョークが働いています

のでエンジン回転は徐々に高くなります。

4. 回転が高くなったときは、アクセル・ペダルを軽く踏んでから足をはなし回転を下げてください。



エンジンが暖機されると自動的に回転は下がりますが、暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。外気温によってことなりますが約20℃のときであれば、エンジン始動後約30秒でアクセル・ペダルを軽く踏んでなし回転を下げてください。

〈エンジンが暖まっているとき〉

アクセル・ペダルを半分程度に踏み込んだまま、エンジンを始動してください。

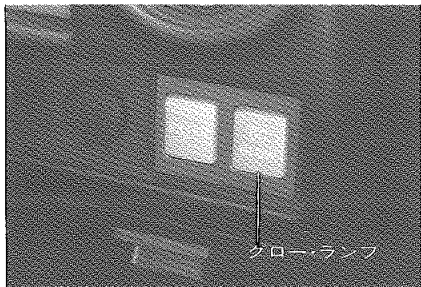
ガソリン車(EFI車)

1. アクセル・ペダルから足をはなしたままエンジンを始動します。
2. そのままで、しばらく暖機運転をします。暖機が終われば自動的にアイドル回転になります。

ディーゼル車

ディーゼル車の始動はガソリン車と異なり、グロー・プラグの予熱が必要で
す。

1. エンジン・スイッチをONにする
とグロー・ランプが点灯します。



グロー・ランプ

2. グロー・プラグの予熱が完了し、
ランプが消灯したらアクセル・ペ
ダルを半分程度踏み込みスター
ターを回します。

★予熱時間は、エンジン冷却水温に
より自動的にコントロールされ、
冷却水温の低いとき、および寒冷
時には多少長くなります。

3. エンジンの回転が完全に持続する
まで、スターターを回してください。

★スターターを回し続けて約30秒経
過しても始動できない場合は、い
ったんエンジン・スイッチをACC
の位置にもどし、少し間をおい
てから1〜3をくりかえしてください。

★エンジンが暖まっているときは、
グロー・ランプに関係なく始動で
きます。

4. エンジン始動後は、アイドル・ア
ジャスタ・ノブを右方向に回してエ
ンジンが安定して回る所まで回転を
あげ、十分暖機運転をしてください。



アイドル・アジャスタ・ノブ

5. 暖機後は、アイドル・アジャスタ・
ノブを左にいっぱい回し、標準のア
イドル回転にもどしてください。

★寒冷時エンジンが冷えている状態

では、アイドル回転数が下がります
ので始動前にアイドル・アジャ
スタ・ノブを右に回してください。
始動後、暖機が終わりましたらア
イドル・アジャスタ・ノブを左に
回してください。

■エンジン・ウォーマー *

ディーゼル車のみ

寒冷時電熱ヒーターにより冷却水を暖
めて始動性を良くします。

通電時間は気温や周囲の状態などに
より異なりますが、およそ次の時間を
目安にご使用ください。

外気温	通 電 時 間	
	マニュアル・ト ランスミッション車	オートマチック・ト ランスミッション車
-20℃	30分以上	60分以上
-25℃	60分以上	90分以上
-30℃	90分以上	120分以上

なお、通電時間が長い程暖機運転時間
の短縮およびヒーターの速効性に効果
があります。

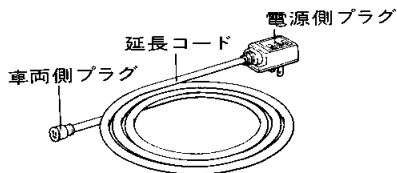
また、長時間通電しても過熱の心配は

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

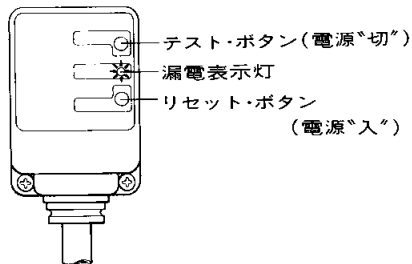
ありません。

〈使用方法〉

1. 冷却水の量が適正であることを確認します。(70ページの「冷却水の量」の項目を参照してください。)
2. 延長コードの電源側プラグを電源コンセント (AC100V) に差し込み、テスト・ボタンを押して漏電表示灯が点灯することを確認します。次にリセット・ボタンを押して (表示灯は消灯) コードをコンセントからはずします。

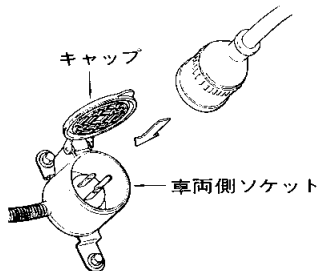


電源側プラグ(漏電保護プラグ)



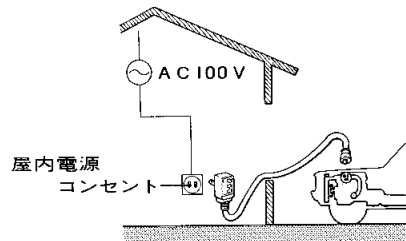
☆使用前と月1回以上、上記のテストを行なってください。万一、テスト・ボタンを押しても正常に作動しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

3. 延長コードを車両側ソケットに確実に差し込み、エンジン・フードを軽くしめます。



コードを損傷させないようにエンジン・フードはロックするまでしめないこと。

4. 延長コードのもう一方をAC100Vコンセントに差し込みます。これでエンジン・ウォーマーに通電されます。



☆通電中に漏電表示灯が点灯 (電源“切”) した場合、一度リセット・ボタンを押してください。リセット後も点灯するときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

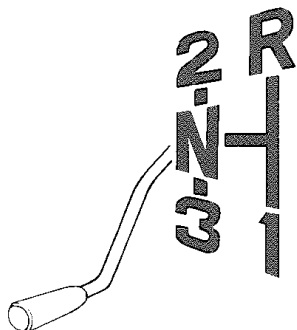
5. コードの取りはずしは電源側から行ない、車両側ソケットのキャップをしめます。

☆エンジンを始動する前に必ず延長コードを取りはずし、車両側ソケットのキャップをしめてください。

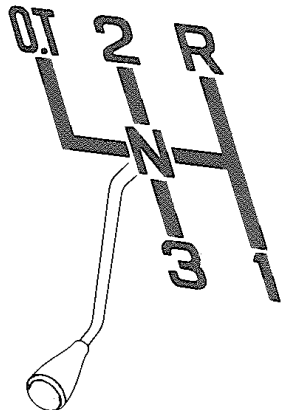
■シフト・レバー

マニュアル・トランスミッション

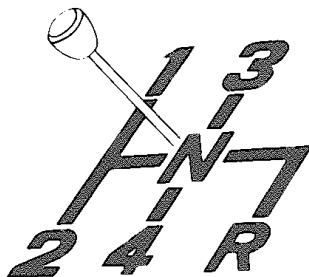
<3速コラム・シフト>



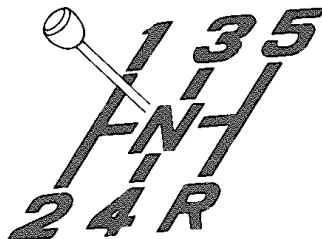
<4速コラム・シフト>



<4速フロア・シフト>



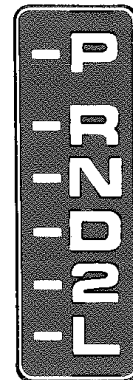
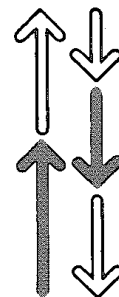
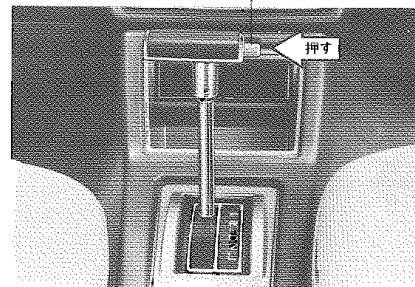
<5速フロア・シフト>



オートマチック・トランスミッション

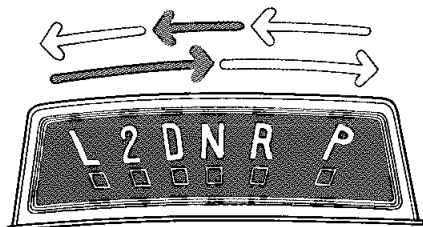
<フロア・シフト>

コントロール・レバー・ボタン



- そのまま動かします。
- ⇕ コントロール・レバー・ボタンを押し動かします。

〈コラム・シフト〉



→ そのまま動かします。

⇨ 手前に引いて動かします。

各レンジの使いかた

Ⓔ パーキング・レンジ

駐車およびエンジン始動の位置。

Ⓕ リバース・レンジ

バックさせるときの位置。

Ⓖ ニュートラル・レンジ

中立位置。この位置でもエンジンを始動することができますが、安全のためにⒺレンジで始動しましょう。

Ⓖ ドライブ・レンジ

通常走行の位置。

Ⓒ セカンド・レンジ

エンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

Ⓖ ロー・レンジ

強力なエンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

50km/h以上では使用しないでください。

運転のしかた

1. 通常はⒼで発進すると、ロー・ギヤからスピードによりセカンド・ギヤ、トップ・ギヤにと自動的に切り替わります。
2. マニュアル・トランスミッション車と同様に、Ⓖから発進し、ⒸからⒼへと手動の操作でも運転できます。
3. 急坂路を下るときは、路面状態やスピードに応じてⒼまたはⒸに入れて、エンジン・ブレーキをかけます。
4. 追い越しなど急加速をしたいときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、レバーはⒼでも、ギヤはトップからスピードによりセカンド、またはロー・ギヤに切り

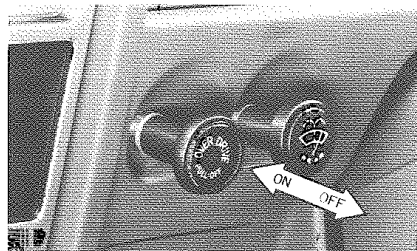
替わって急加速ができます。

(キック・ダウン操作)



1. エンジンを始動するときは、必ずパーキング・ブレーキ・レバーを引いてから行なってください。
2. ⒺとⒻへは、車が完全に止まってから入れてください。
3. 停車中、Ⓔ以外ではエンジンを高回転にしないでください。
4. アクセル・ペダルを踏み込んだまま、ⒼからⒼまたはⒻへ切り替えないでください。また、停車中にシフトするときは、ブレーキをかけた状態で行なってください。
5. 駐車時は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをⒺにしてください。
6. ⒼからⒼへ完全にシフトしてから(1秒たって)アクセル・ペダルを踏み込み発進してください。
7. ⒺⒻ以外で停車しているときはブレーキを踏むか、パーキング・ブレーキ・レバーを引いてください。

■オーバードライブ・メイン・スイッチ
〈4速オートマチック・トランスミッション車〉*



オーバードライブ装置付き車は3速オートマチック・トランスミッションにオーバードライブ装置を加え4速オートマチック・トランスミッションとしたものです。

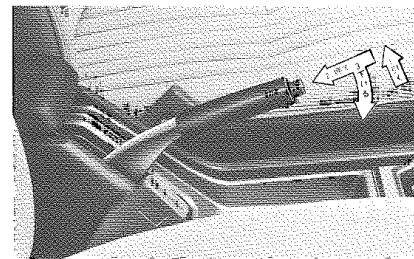
1. 通常はオーバードライブ・メイン・スイッチをONにしておいてください。3速オートマチック・トランスミッションと同じ操作で4速オートマチック・トランスミッションとして使用することができます。
2. オーバードライブが作動しているときは、ノブ内のインジケータランプが点灯します。

3. オーバードライブ・メイン・スイッチを引いて(OFFにして)おけば通常の3速オートマチック・トランスミッションになります。



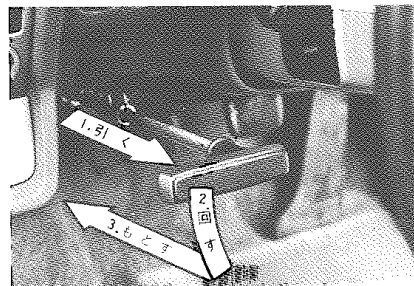
1. 登山道路など長坂路を上り下りするときは、メイン・スイッチを引いておいてください。
2. 強いエンジン・ブレーキが必要なときは、スピードに応じて②または③に入れてください。ただし、すべりやすい路面では、タイヤがスリップして危険ですので急激なシフト・ダウンおよびエンジン・ブレーキはさけてください。

■パーキング・ブレーキ・レバー
フロア・シフト車



駐車時いっぱい引いて使用します。もどすときはレバーを少し引き上げながら先端のノブを押えてもどします。

コラム・シフト車



駐車時いっぱい引いて使用します。もどすときはレバーを軽く引きながら下に約60°回してもどします。走行する前にレバーをもどして必ず

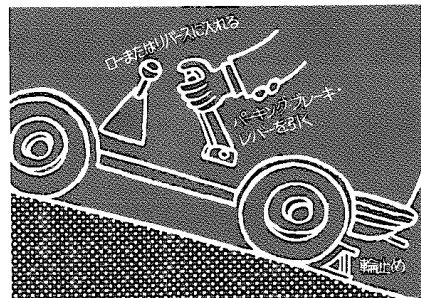
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください

レーキ・ウォーニング・ランプが消えたことを確かめてください。



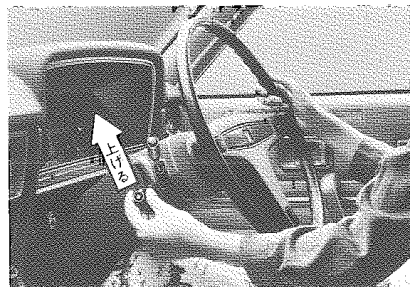
パーキング・ブレーキ・レバーを引いたまま走行するとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

駐車のかた



パーキング・ブレーキ・レバーを引き、ギヤをローまたはリバース（オートマチック車は②の位置）に入れ、坂道では輪止めを忘れずにしてください。なお、急な坂道での駐車はなるべくさけてください。

■チルト・ステアリングの調整 ＊



ノブを押上げている間、ハンドル位置を上下に変えることができます。

1. 適切な位置でノブをはなせば、ハンドルはその位置でロックされます。
2. 調整後は、ハンドルを上下に動かしてロックされたことを確認してください。



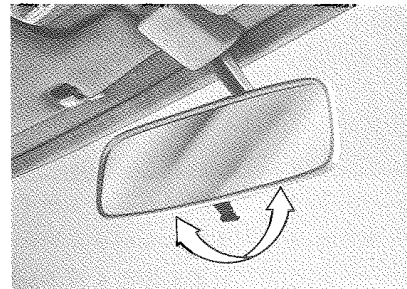
ハンドルの位置調整は、車を運転する前に行なってください。車が動いているときの調整は、危険です。

■ミラー調整

後方視野が十分確認できる位置に調整しましょう。

防眩式インナー・リヤ・ビュー・ミラー

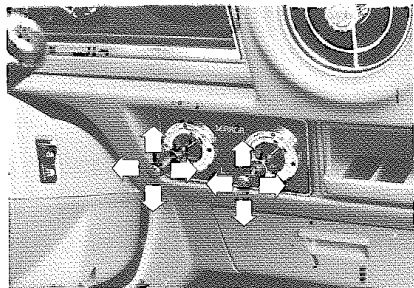
STD車は除く



後続車のライトがインナー・ミラーに反射してまぶしいとき、ミラーの下にあるレバーを手前に引くと後続車のライトの確認が楽になります。

ハードトップ車の場合、夜間ルーム・パーティション・ドア(31ページ参照)をひらいた状態で走行するとミラーにリヤ・ランプの光が映ることがあります。その場合は通常的位置（レバーを前側に倒した位置）にしてください。

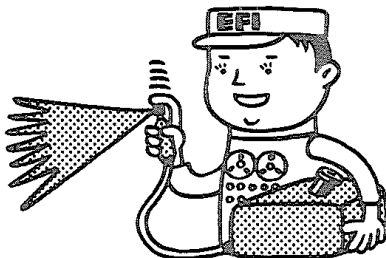
リモート・コントロール・ミラー*



上下左右のノブの動きは、アウター・リヤ・ビュー・ミラーと連動になっています。

■EFI（電子制御式燃料噴射装置）

M-EU, 4M-EUエンジンとう載車



無線装置を取り付けると、エンジンに異常をきたすことがあります。取り付けの際には取り扱い店にご相談ください。

■ESC

（電子制御式スキッド防止装置）*

ESCはすべりやすい路面や、高速走行における制動時の横すべりを防止する装置です。

走行前のチェック

1. ブレーキ・ペダルを踏み、エンジン・スイッチをONにすると、エンジン・ルームから作動音“ゴトン”が聞こえます。
2. 作動音が聞こえたらESCは正常です。

走行中のチェック

走行中、赤色のブレーキ警告灯が点灯した場合は、ESCなどブレーキ系統に故障が生じています。

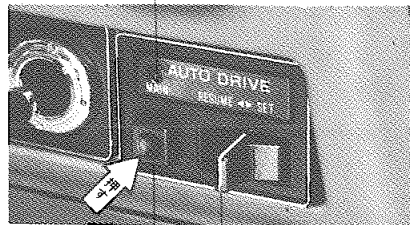
☆万一ESCが、走行中故障した場合には、普通のブレーキ機構にもどります。

☆無線装置を取り付けるとESCが、誤って作動することがあります。取り付けの際には取り扱い店にご相談ください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ オート・ドライブ *

インジケーター・ランプ



メイン・スイッチ コントロール・スイッチ
 オート・ドライブはアクセル・ペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。40～100km/hの任意の速度で定速走行することができます。

1. 希望速度にセットするとき

メイン・スイッチを押すと、インジケーター・ランプが点灯します。次にコントロール・スイッチをSET側に押しつけてからはなすと、そのときの速度にセットされます。

2. 一時的に増速したいとき

(オート・ドライブ走行中)
 アクセル・ペダルをそのまま踏み込んでください。アクセル・ペダルをはなせば再びもとの設定速度にもどります。

3. 増速セットするとき

(オート・ドライブ走行中)
 アクセル・ペダルをそのまま踏み込んで希望の速度に達したら、コントロール・スイッチをSET側にします。

4. 減速セットするとき

(オート・ドライブ走行中)
 ブレーキ・ペダルを踏むことにより減速して、希望速度まで減速したらコントロール・スイッチをSET側にします。

5. オート・ドライブ状態を解除するときは

ブレーキ・ペダルを軽く踏みます。

6. 次の場合も解除できます。

- (1) オート・ドライブ・メイン・スイッチを「OFF」にしたとき
- (2) シフト・レバーを $\text{\textcircled{M}}$ にしたとき
 (オートマチック・トランスミッション車)
- (3) クラッチ・ペダルを踏んだとき
 (マニュアル・トランスミッション車)

- (4) 車速が約40km/h以下になったとき
- (5) パーキング・ブレーキ・レバーを引いたとき

7. 解除前の設定速度に復帰させたいとき

5.および6.の(2),(3),(5)の解除方法で一度、オート・ドライブが解除されても、車速が40km/h以上であればコントロール・スイッチをRESUME(復帰)側に押しつけることにより、自動的に解除される前の設定速度までもどり、その後、定速走行を維持します。



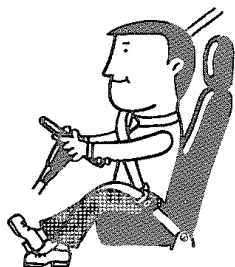
1. メイン・スイッチをOFFにすれば、オート・ドライブの全動作を停止、解除できます。
2. オート・ドライブを使用しないときは、安全のためメイン・スイッチをOFFにしておいてください。
3. ブレーキ・ペダルの操作により解除するときは後続車に注意して行ってください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

無断複製禁止

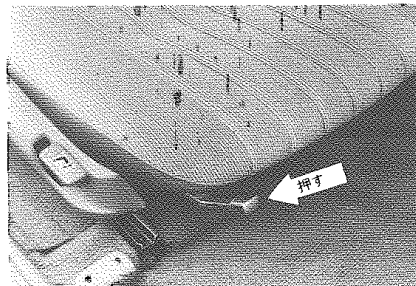
シートの調整

■フロント・シートの位置調整



ペダルを十分踏み込むことができる、ゆとりある位置に調整しましょう。位置調整は必ず走行前に行なってください。

前後位置調整

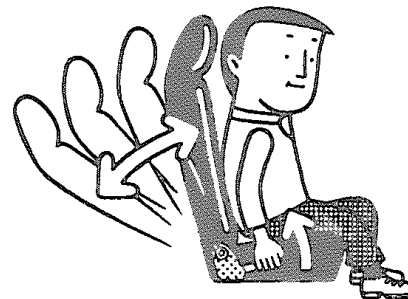
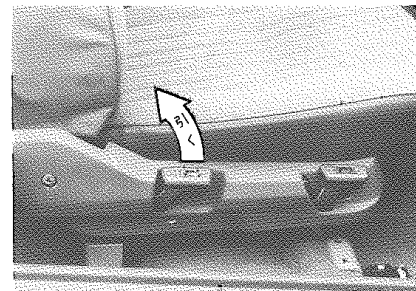


レバーを外側に押している間、前後の位置調整ができます。

調整後はシートがロックされたことを確認してください。

リクライニング調整

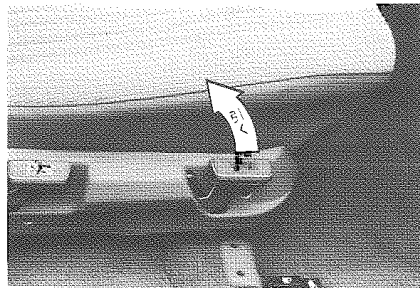
ベンチ・シート車を除く



レバーを引き上げると、シート・バックの角度が調整できます。

調整後はシート・バックがロックされたことを確認してください。

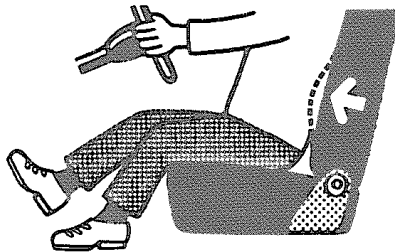
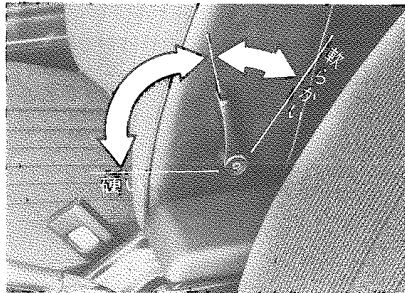
■ 上下アジャスター *



シート・クッション右横のレバーを引いてシート・クッション前部の高さを3段階（上，中，下）に調整することができます。

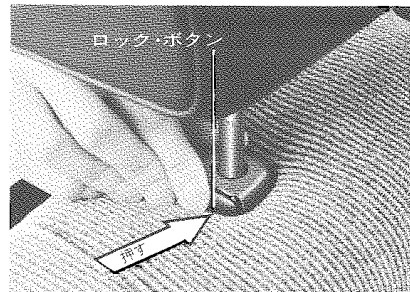
適切な高さにした後、レバーをはなすとシート・クッションは固定されます。調整後はシートがロックされたことを確認してください。

■ ランバー・サポート(腰椎支持) *



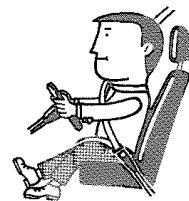
レバー操作で、背もたれの腰部の硬さを3段に変えられます。

■ ヘッド・レストの位置調整



頭の後方の位置になるように高さを調整してください。

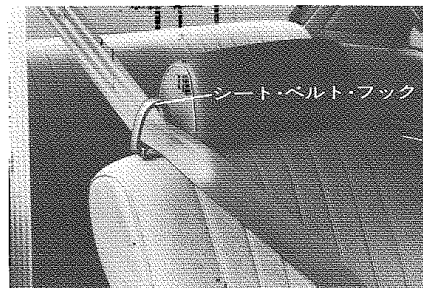
下げるときは、ロック・ボタンを押しながら下げます。



シート・バックと背中の中に厚いクッションなどを入れると危険防止に役立ちません。

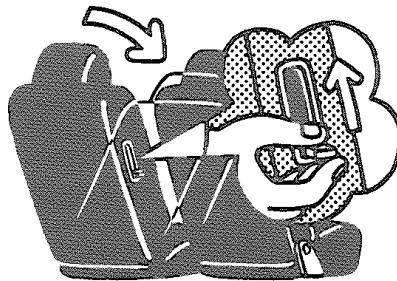
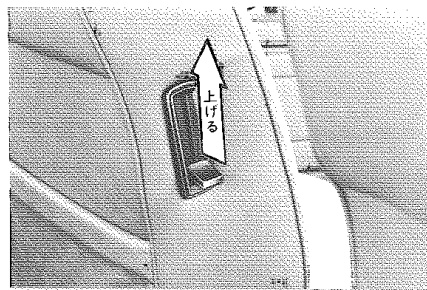
■ハードトップ車の後席への乗り降り

〈運転席側〉



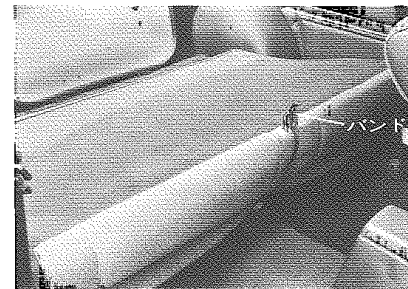
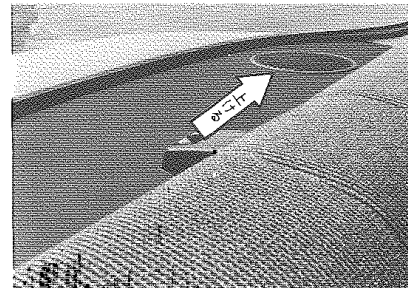
シート・リクライニング・アジャスト・レバーでシート・バックを倒します。ヘッド・レスト横のシート・ベルト・フックからベルトをはずしておいてください。

〈助手席側〉



1. シート・バック横のレバー（助手席側のみ）または、シート・リクライニング・アジャスト・レバーでシート・バックを倒します。助手席、シート全体が前方へ移動し後席への乗り降りが楽になります。
2. 助手席をもとにもどすときは、シート・バックをを起こしてシート全体を後方へ押し、中央の位置で固定されます。

■ハードトップ車のリヤ・シートの倒し方 *

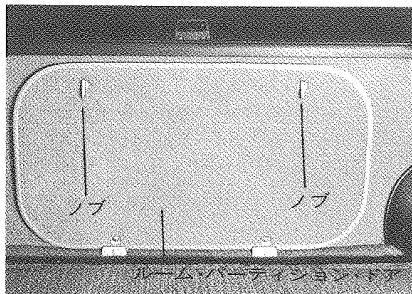


リヤ・シートを倒すことにより、後席に手荷物を置くことができます。

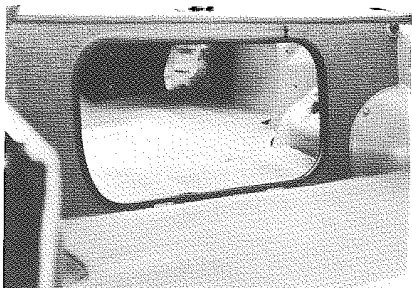
1. ロックのレバーを持ち上げてシート・バックを倒します。
2. バンドでシート・バックを固定します。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

長い物(スキー板)などを積むには――



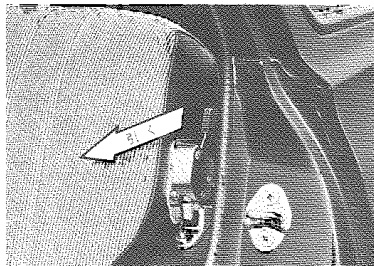
ノブを回して取りはずします。



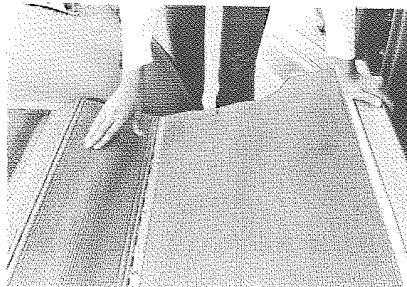
取り付けるときは、ドア下方の丸印と矢印を合わせます。

■ リヤ・シート

ワゴン/バン, コラム・シフト車



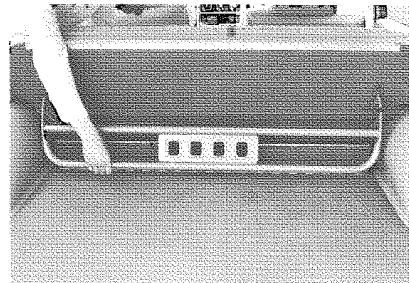
1. ロック・レバーを前に引きます。



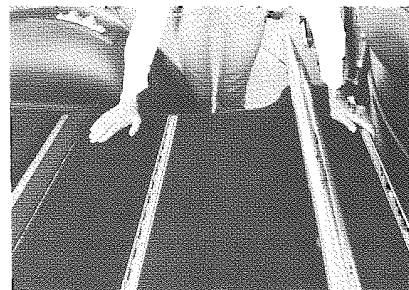
2. シート・バックを前に倒し、中央部のパネル部を押え固定します。
3. 起こすときは、中央部のパネルを持ち上げて起こして下さい。

後ろに押えつけ、確実に固定して下さい。

バン, フロア・シフト車



1. シート・バック裏のハンドルを引き上げてから前に倒します。



2. 中央部のパネルを押えつけ固定し、次にハンドルを起こして下さい。

3. 起こすときは、中央部のパネルを持ち上げてから、シート・バックを起こします。

いったいに起こしてからハンドルを倒し、シート・バックを押えつけて固定します。

シート・ベルト の装着

運転者と同乗者の安全を守るために、フロント・シートおよびリヤ・シートにシート・ベルトが装備されています。シート・ベルトは正しく装着しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法、注意にしたがってベルトの正しい取り扱いを身につけてください。

☆車を運転する前には必ずシート・ベルトを装着してください。

☆腰部ベルトは、必ず腰骨の位置に装着してください。軟らかい腹部にかけると万一のとき強い圧迫をうけ危険な場合があります。

■フロント・シート・ベルト

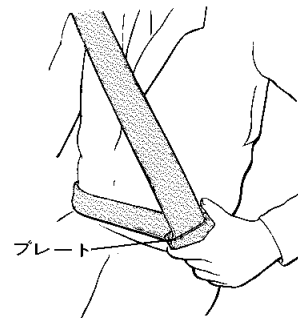
装着のしかた

ELR（緊急時ロック式リトラクター）式シート・ベルト

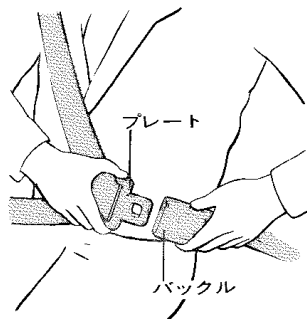
セダン/バンのSTD車は除く

通常は引き出し巻き取りが自由なためベルトの長さを調節する必要はありません。ただし、緊急時には自動的にロックされます。

1. シートを調整し、正しい姿勢ですわります。
2. 巻き取り装置からプレートを持ってゆっくり引き出し、ねじれていないことを確かめます。



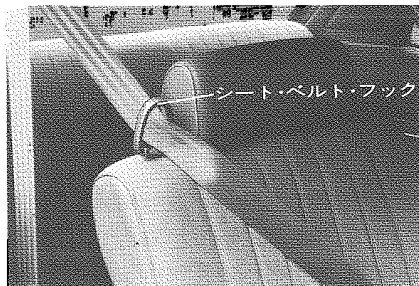
3. プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。



4. 腰部ベルトは必ず腰骨の位置にかかるとし、肩ベルトを少し引いて腰部のゆるみがないようにします。



ハードトップ車のみシート・ベルト・フックが装備してあります。肩ベルトをシート・ベルト・フックに通してください。



テンション・リデューサー付きELR式シート・ベルト

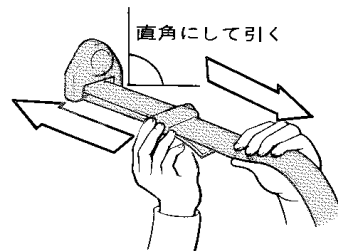
ハードトップ車の運転席のみ

取り扱いはELR式シート・ベルトと同じです。

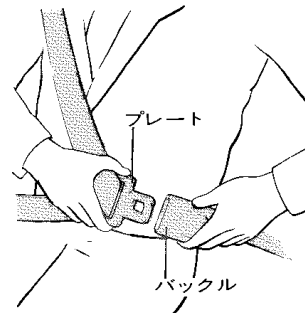
シート・ベルト装着後、肩ベルトを少し引っ張ってゆっくりもどすと、テンション・リデューサー（ベルト巻き込み力減少装置）が作動して、シート・ベルトによる肩への圧迫感が少なくなります。

NLR（ノン・ロッキング・リトラクター）式シート・ベルト STD車のみ

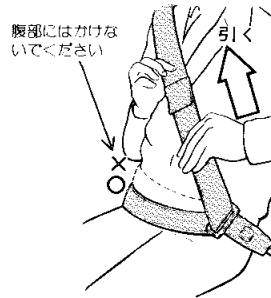
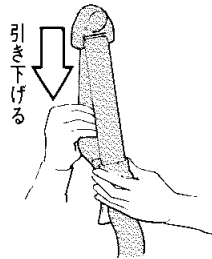
1. シートを調整し、正しい姿勢ですわります。
2. 肩ベルトを図のように伸ばします。



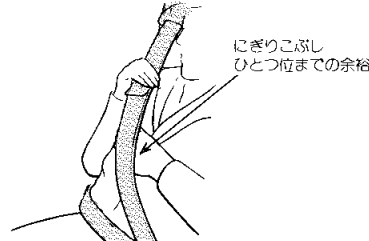
3. ベルトをいっぱい引き出し、ねじれていないことを確かめプレートをかちッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。



4. ベルトをいっぱい引き出した状態で、腰部ベルトが必ず腰骨の位置にかかるようにし、肩ベルトを引いて腰部のゆるみがないようにします。

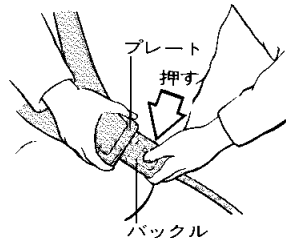


5. 胸と肩ベルトとの間の余裕は最大でもにぎりこぶしひとつ分はいるよう肩ベルトで調節します。余裕を取りすぎると万一の時、肩ベルトがずり落ちて効果が減少するおそれがあります。



取りはずしかた

バックルのボタンを押すとはずれます。



プレート側のベルトは自動巻き取り式ですので、ベルトをはずすと自動的に格納されます。

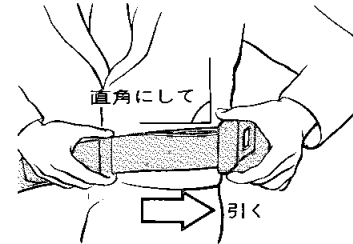
■リヤ・シート・ベルト

装着のしかた

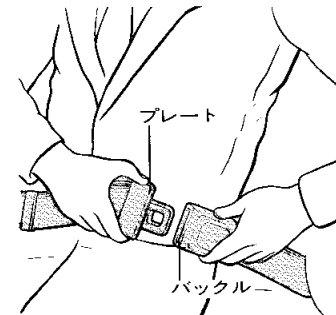
長さ調整式（2点）シート・ベルト

パンのSTD, DX車は除く

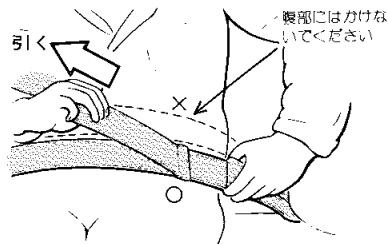
- 正しい姿勢ですわりプレート側のベルトを少し長めにしてベルトがねじれていないことを確かめます。



- プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。

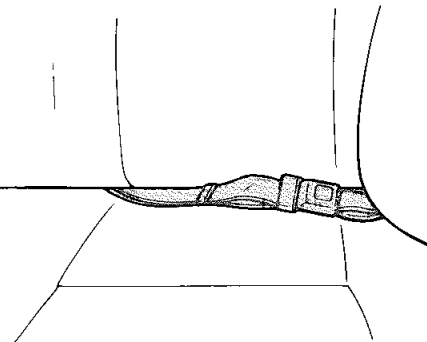


3. ベルトが必ず腰骨の位置にかかるようにし、腰部のゆみをプレート側のベルトを引いてなくします。



取りはずしかた

バックルのボタンを押すとはずれます。



はずしたベルトは、プレートをバックルにはめておいてください。



1. フロント・シート・ベルトを装着した状態で、肩ベルトが首、あご、顔などに当たるようなお子様の場合は万一のとき危険ですから、リヤ・シートにすわり、リヤ・シート・ベルト（2点式）を装着してください。
また1人ですわることができない乳幼児の場合はシート・ベルトを使用しないでください。
2. ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
3. 妊娠中の女性や疾患のある方のシート・ベルト装着は、万一の場合腹部などに強い圧力を受けるおそれがありますので医師に相談のうえご使用ください。
4. ベルトのよごれは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使いブラッシングして落としてください。
5. ドアへのはさみ込み、よごれなど

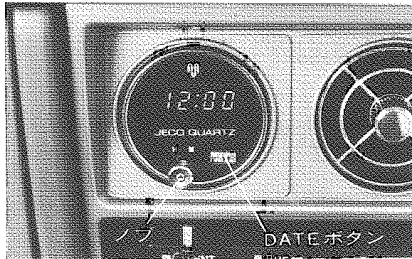
を防ぐため使用しないベルトは所定の位置に格納しておいてください。

6. ベルト各部の損傷、作動状態を点検しましょう。
ほつれ、すり切れができたり、金具部などが正常に作動しなくなった場合は、ベルトを交換してください。

室内装備の 使い方

■時計*

日づけ付き水晶式デジタル



エンジン・スイッチがACC, ONの位置のときに時刻が表示され、**DATE** ボタンを押すと約6秒間月日表示をします。

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にすると、時計はそのまま作動しますが表示は消えます。
2. ライト・コントロール・スイッチがONのときは、減光して表示されます。

〈時刻調整〉

1. 時報に合わせるとき

ノブを手前に引っ張ると同時に、スタートします。

また時刻は

0～29分は切り下げて表示されます。

(例) 1:29→1:00に調整されます。

30～59分は切り上げて表示されます。

(例) 1:40→2:00に調整されます。

2. “時”調整

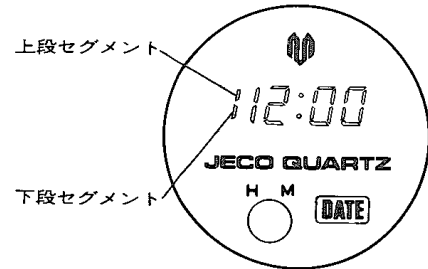
ノブを押したまま左へ回すと時間表示が早送りされます。

3. “分”調整

ノブを押したまま右へ回すと分表示が早送りされます。

☆時刻調整時、左側のセグメントが点滅します。上段が点滅するときは午前を、下段が点滅するときは、午後を示します。
時刻調整の時に午前と午後を正しく

選択しないと日づけ変更が正しく行なわれません。



〈日づけ調整〉

DATE ボタンを押して6秒以内にノブを押して左へ回すと月が、右に回すと日が早送りします。

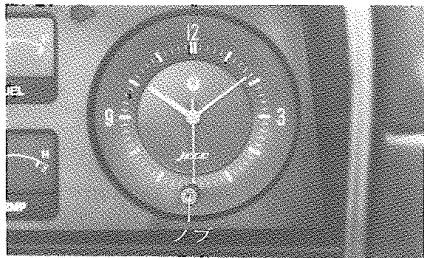
☆日づけ表示は2月の場合は29日まで表示しますのでうるう年以外年には調整が必要です。2月以外の月は自動的に変更されますので調整の必要はありません。

☆一度電源が切れた(バッテリーをはずしたときなど)あと、電源が接続されると1月1日1:00分にセットされ、同時に表示が点滅し調整が必要なことを示しますので、正しい月日、時刻に調整してください。

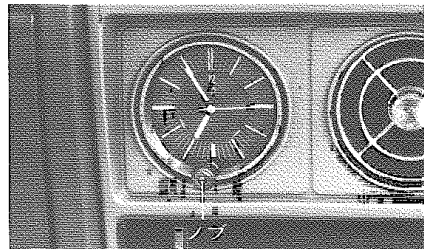
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

無断複製禁止

音さ式



水晶式



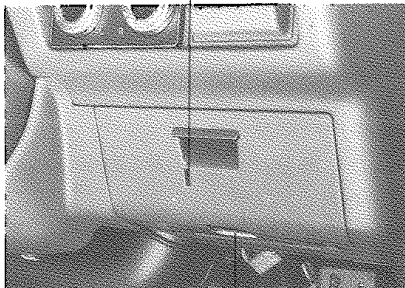
時刻調整は、ノブを引いたまま回します。



音さ式時計はバッテリーをはずすと次につないでも時計は止まったままになります。ノブをいっぱい引き手をはなすと秒針が動き始めます。

■エンジン・キー照明 *

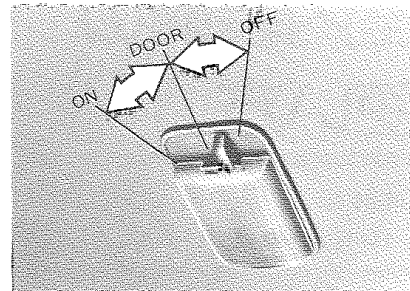
エンジン・キー照明



エンジン・キー照明

運転席側のドアにキーを差し込み、解錠位置に戻すと、キーをもどしたときから約30秒間ヒューズ・ボックス内にあるランプが、エンジン・スイッチおよび足元を照らします。ただし、エンジン・スイッチをONにすると消灯します。

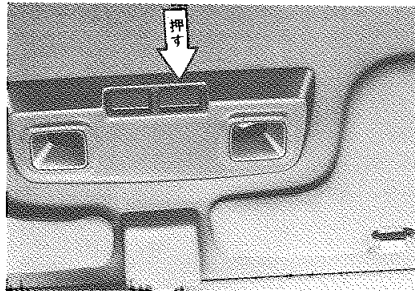
■ルーム・ランプとドアの関係



- ON.....ドアの開閉に関係なく点灯します。
- DOOR.....ドアをあけたときのみ点灯します。
- OFF.....ドアの開閉に関係なく消灯します。

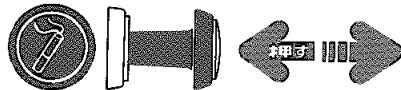
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■フロント・パーソナル・ランプ*



スイッチ右側を押すと右側のランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。左側も同様です。

■シガレット・ライター

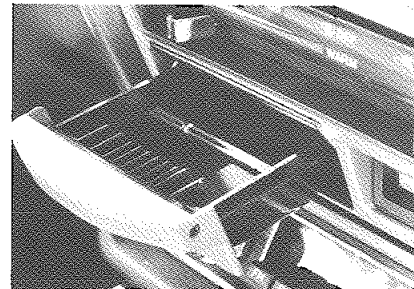


エンジン・スイッチがACCかONのとき使用できます。
ノブを押し込んだら、すぐ手をはなし、とび出すまで待ちます。



1. 押えつけたままにすると、シガレット・ライターが過熱し非常に危険です。
2. ソケットに他車のシガレット・ライターを差し込まないでください。
3. ソケットからは、湯わかし器などトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

■灰皿



掃除するときは下へ押しながら引き出してください。

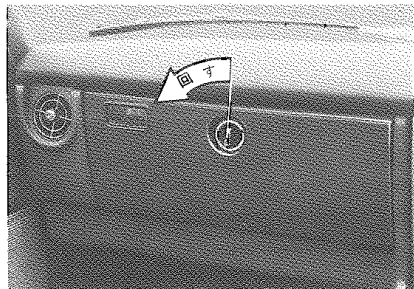


1. 使用後は確実にしめてください。あけたままにするとタバコの火が他の吸いがらに燃えひろがり火災になるおそれがあります。
2. 灰皿には吸いがらをためすぎないでください。
3. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れしないでください。
4. マッチ、タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。

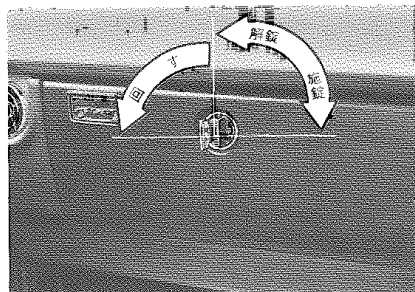
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■グローブ・ボックス

STD/タクシー仕様車



STD/タクシー仕様車を除く

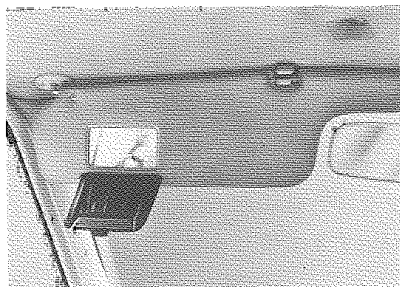


キーを差し込んで右へ回せば施錠できます。

サブ・キーは使用できません。

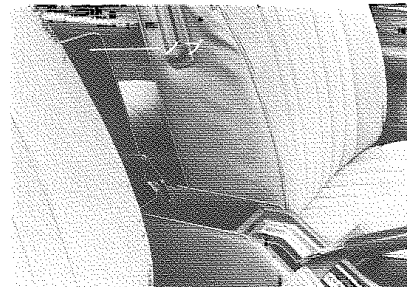
グローブ・ボックスをあけたまま走行すると危険です。必ずしめてください。

■化粧ミラー付きサン・バイザー *



助手席サン・バイザーの裏側に、ミラーがついています。

■コンソール・ボックス *

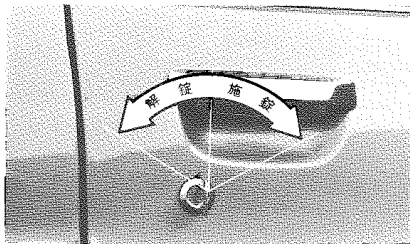


ノブを引くとフタをあけることができます。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

車体各部の 開閉

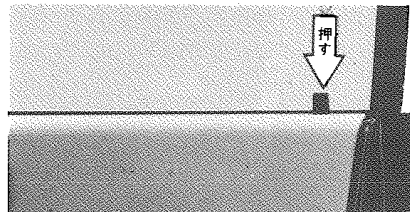
■ ドアについて フロント・ドア



車からはなれる時はエンジンを切って
ドアをロックしてください。
法的にも義務づけられています。

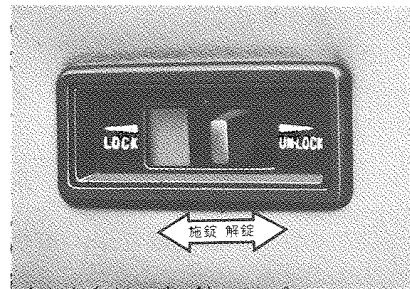
ロックするには
〈車内から〉

セダン/ワゴン/バン車



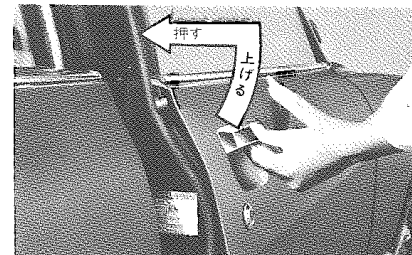
ロック・ボタンを押します。

ハードトップ車



ロック・レバーを「LOCK」の位置に
します。

〈車外から〉——キーを使用しないとき



セダン/ワゴン/バン車

ロック・ボタンを押し、アウトサイド・
ハンドルの内側を引き上げたままドア
をしめます。

ハードトップ車

ロック・レバーを「LOCK」の位置に
し、アウトサイド・ハンドルの内側を
引き上げたままドアをしめます。

リヤ・ドア

セダン/ワゴン/バン車

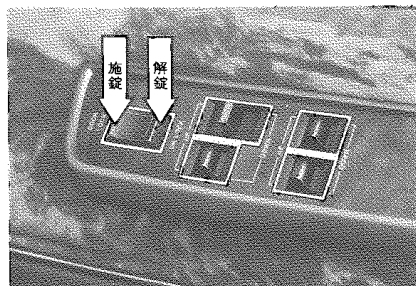
ロック・ボタンを押し、ドアをしめま
す。

ドアをしめるときは確実にしめてくだ
さい。

半ドアは危険です。

■電磁式ドア・ロック

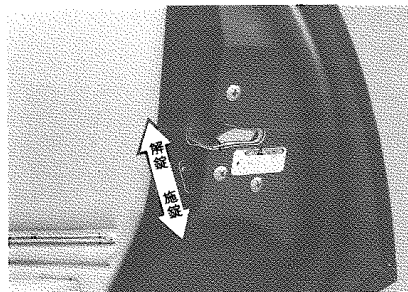
GRANDE車のみ



1. 運転席側のドアにマスター・スイッチがついています。
2. スイッチの DOOR LOCK 側を押すと全ドアが施錠されます。
3. UNLOCK側を押すと運転席以外のドアが解錠されます。運転席ドアは、ドア・インサイド・レバーを引けば解錠されます。
4. マスター・スイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチをはなして再度押してください。

■チャイルド・プロテクター

セダン車のみ

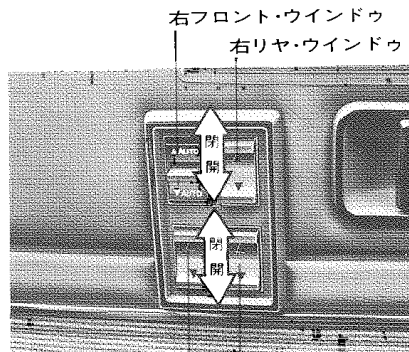


安全をはかるためにリヤ・ドアにはチャイルド・プロテクターがついています。お子様を乗せるときなどにご利用ください。

1. ロックの位置にしてドアをとじると、ロック・ボタンの位置（ロックまたはアンロック）には関係なくドアは車内からはあきません。
2. ドアをひらく場合は、ロック・ボタンを引き出したうえ、車外からアウトサイド・ハンドルを引きます。
3. 室内からあけたい場合は、ロック・ボタンを引き出しドア・ガラスを下げ、窓から手を外に出しアウトサイド・ハンドルを引いてください。

■ワンタッチ式パワー・ウィンドウ*

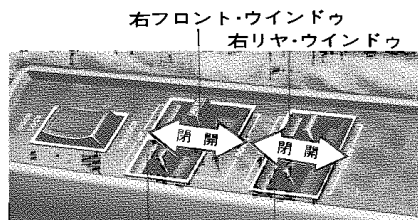
GRANDE車を除く



右フロント・ウィンドウ
右リヤ・ウィンドウ

左リヤ・ウィンドウ
左フロント・ウィンドウ

GRANDE車のみ



右フロント・ウィンドウ
右リヤ・ウィンドウ

左リヤ・ウィンドウ
左フロント・ウィンドウ

運転席側には、全ドアのウィンドウ・ガラスを開閉できるマスター・スイッチが取り付けられています。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

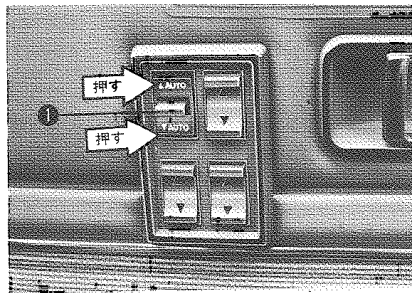
無断複製禁止

その他のドアにもそれぞれのウィンドウ・ガラスを開閉できるスイッチがついています。

右フロント・ウィンドウはワンタッチで全開、全閉することができます。

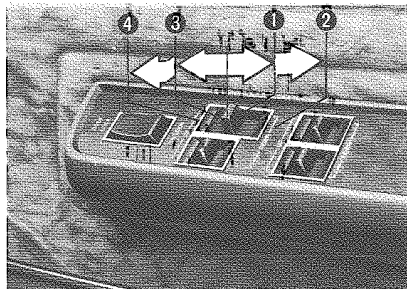
右フロント・ウィンドウの開閉

GRANDE車を除く



上側の **AUTO** を押すと全閉，下側の **AUTO** を押すと全開します。
途中で止めたいときは，①のスイッチを逆方向に押してください。

GRANDE車のみ



- ①押している間下降します。
- ②自動で全開します。
- ③押している間上昇します。
- ③の位置でスイッチをいったん下に押し，④の位置まで動かすと自動で全閉します。

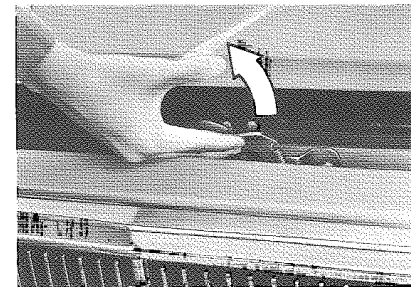
自動開閉を途中で止めるには，スイッチを③または①の位置にしてください。
★ウィンドウの開閉は，エンジンがかかっているときに行なってください。
★しめるとき手などをはさまないように注意してください。
★マスター・スイッチと他のウィンドウ・スイッチを同時に逆方向に動かさないでください。

■エンジン・フード(ボンネット)

1. 計器盤右下のレバーを引きます。



2. エンジン・フードのすき間に手を入れ，セーフティー・ラッチをはずしてエンジン・フードをいっぱいあけます。



3. とじるときは，フードを下げて前縁を押えつけ，しっかりロックしてください。



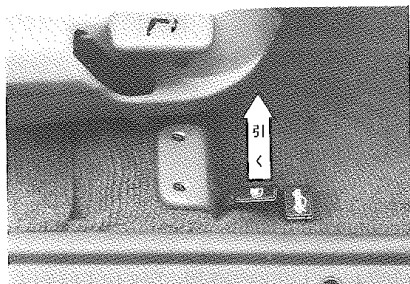
エンジン・フードが，半ロックのままでは走行すると非常に危険です。確実にロックしていることを確かめてください。

■ガソリン・タンク・キャップ

〈車内から〉

—フェューエル・リッド・オープナーで

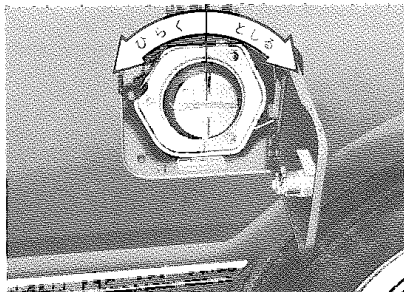
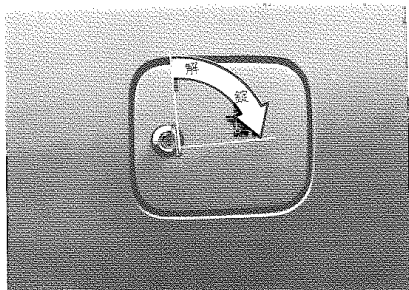
STD車を除く



運転席のシート右下のレバーを上へ引くとカバーがひらきます。

エンジン・キーをLOCKの位置にしてからレバーを引くようにしてください。

〈車外から〉——キーを使って



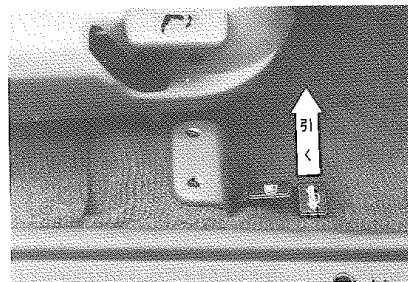
キーを右に回したまま手前に引き、ガソリン補給口のふたをあけます。キャップは左に回すとはずれます。

ガソリン補給のときは、必ずエンジンを停止してください。

■トランク

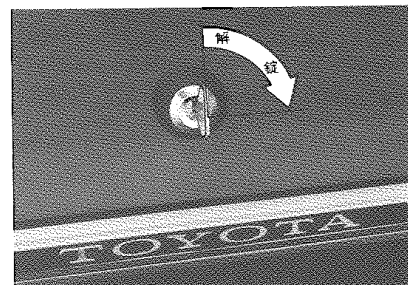
〈車内から〉——トランク・オープナーで

バン/ワゴン/STD車を除く



運転席のシート右下にある、レバーを引き上げてください。

〈車外から〉——キーを使って



キーを差し込み、右に回します。

サブ・キーは使用できません。

とじるときは、上から手で押えつけて

ロックしてください。

また、キーを差し込み左に回しておけば、トランク・オープナーではトランクをあけることができません。

キーをトランク内に置き忘れないようにしてください。

トランク・ルーム・ランプ *

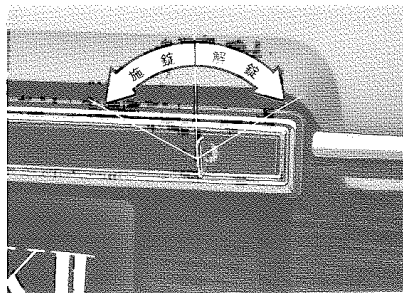
トランクをあけると、ランプが点灯します。

■バック・ドア

バン/ワゴン車



1. バック・ドア・ハンドルの内側を引き上げます。
2. ひらくと、バック・ドア・ランプがつきます。
3. とじるときは、バック・ドアをそのままおろし、上から押えつけます。



4. キーを差し込み、左へ回すと施錠できます。

☆注意

1. 走行中にひらくと危険です。確実にロックしていることを確かめてください。
2. 荷台には、人を乗せないでください。万一の場合、ケガをするおそれがあります。
3. バック・ドアは、いっぱい上に持ち上げて降下しないことを確認してください。
4. バック・ドアをしめるとき、他の人の手などをはさまないように注意してください。

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

無断複製禁止

